

[049] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10223>

出版情報：語文研究. 49, 1980-06-01. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

初夏の机辺に第四十九号をおとどけます。

収めるところは論文三編・書評一編、かなり薄手のものとなりましたが、そのような形式面が内容面の充実によってカバーされたかどうか、皆様方の御批判を仰ぎたく存じます。最近は大学紀要類の盛行というような事情もあつてか、とかく投稿原稿を頂く事が難しい傾向にあります、それはそれとして本誌の量的手薄さは、また経済的な事情にも関係します。その辺、もう少しゆったりした編集ができるようにいろいろ考慮中ですが、何につけても皆様方の御協力を頂かねばならないかと存じます。よろしくお願い申し上げます。

研究室の方では二年間空白だった第一講座助教授として、この四月から迫野虔徳氏をお迎え致しました。教室の充実ぶり期してまつべしと言えましょう。その他にも年度変りの風景として、あれこれ歓送歓迎の会がうち続いたもようですが、先ず花田俊典助手が福岡女子大学へ転出され、その後任助手として田坂憲二君（中古文学）が就任されました。また大学院生崎村弘文・坂口至・木部暢子の三君は、それぞれ九州内に職を得て研究室を去られ、台湾からの留学生陣子博・陣文添の両君も無事修士課程を修了、遠からずお国の方で然るべき職につかれる予定です。そしてその代りに五名の修士課程入学者を迎えました。先輩諸氏の御鞭撻をお願いする次第です。

学術雑誌であり、且つ同窓会誌的な機能をも有するという本誌のあり方については、いろいろ問題もあろうかと存じます。本誌いよいよ五十号を迎えるというような意味もあり、あれこれ御意見お聞

かせ頂きたく存じます。

次号は十二月初旬頃刊行の予定です。

（奥村記）